

会 議 錄

会議名	第9回辰野町立小・中学校あり方検討委員会
開催日時	令和7年9月30日（火曜日） 午後6時30分～午後8時25分
場所	辰野町民会館 大会議室
出席者	出席者 委員17名中17名、教育委員5名、事務局4名
会議次第	<ul style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 教育長あいさつ 3. 委員長挨拶 4. 協議事項 5. その他 6. 閉会
会議結果	<p>4. 協議</p> <p>(1) 委員会での検討事項にかかわっての論点整理に基づき「少子化の進展に対応した新たな学校づくりについて」「就学前から一貫した支援・指導のあり方について」全体討議を行った。</p> <p>5. その他</p> <p>特になし。</p>
発言者	発言の内容
教育長	<p>2. 教育長あいさつ</p> <p>みなさんこんばんは。今年は大変な猛暑で9月に入っても30度を超える日が続いておりました。でもさすがに秋の彼岸を過ぎますと、朝晩ずいぶん涼しくなってまいりますね。ときには肌寒さも覚えるそんな季節になりました。秋本番のわけですけど、この後今年の秋はどういうふうになりますかね。</p> <p>そのような中、本日は第9回目のあり方検討委員会にお集まりいただきまして大変ありがとうございます。</p> <p>今日は、前回第8回目までの検討委員会において検討されました内容について整理を行うということになります。過去8回、委員の皆さんからはそれぞれ様々な角度からたくさんのご意見をいただきました。その内容は常に議事録ということで皆様にお返しをしていたわけですけれども、今日はその皆様からいただいたご意見を、第1回のあり方検討委員会で教育委員会がお示しをした、こういうことについて検討していただきたいという3項目があったわけですけど、それについて、事務局の方で整理させていただきました。それをもとに様々なご意見をいただければなというふうに思います。整理したものを見ていただいて、ここはどういうことなのか、疑問があるかもしれません。ここはこういうふうに付け加えた方がいいのではないか、これもあるかもしれません。ただ、ここはちょっと違うんじゃない、そんなのもあるかもしれません。それぞれのところから、この3項目についてご意見をいただけるとありがたいなというふうに思います。</p>

	お世話になりますよろしくお願ひします。
委 員 長	<p>3．委員長挨拶</p> <p>改めましてこんばんは。</p> <p>今、教育長の挨拶にありましたように、非常に暑くて長かった夏もようやく過ぎてですね、涼しくなってきました。それでもまだ真夏のような強い日差しのときもあり、びっくりしているわけですけれども、今年は秋が短いと言われながら、あるいは暑い暑いと言っている間に秋分の日も過ぎて、日暮れもだいぶ早く感じられる。よく見ると菊の花の蕾もだいぶ膨らんできております。秋が来ているなってことは感じます。委員の皆様、体調はいかがでしょうか。お忙しい時間帯にご出席いただきありがとうございます。</p> <p>少子化が急激に進む中で、子供たちによりよい教育環境の維持、また学びの保障をするために、この委員会の設置要項にある検討事項を念頭に置きながら討議題を設定し、少子化の進展に対応した新たな学校の実現に向けて意見を出し合い、そして話し合いをここまで重ねてきました。</p> <p>現行の3小学校を何らかの形で集約、また再編する。そして、その後小中9年間を見通した小中一貫教育の学びの場、例えば学習会等でも扱いましたけれども、小中一貫校あるいは義務教育学校へと繋げていく。そのためにはどんなふうにしたらいいかとか、あるいは教育環境をどのようにするかなど、様々な面からの話し合いが進んでまいりました。</p> <p>9回目の今回は、今お話もありましたけれども、この委員会の設置要項にある検討事項に沿って、事務局の資料をもとに、今までのご意見を整理し、このあり方委員会の検討事項に対する提言の内容について全体で討議しながら、内容や表現などについて検討していきたいと思います。</p> <p>小学校3校を集約していく時期や場所、あるいはやり方、小中学校の一貫教育をどのような学校制度のもとで進めていくかなどについては、学校をどう集約していくかっていう話し合いの中で若干出されておりますけれども、新たな学校に関わる詳細の部分につきましては、残念ながら、この委員会の中で求めることはできないようあります。今後教育委員会、町当局、または町議会などの仕事により具体的にしていただけるところかなというふうに思います。</p> <p>本日配布されている検討事項に関わっての論点整理ですが、提言の骨子になっていくと思います。今後の委員会で提言に向けての内容、あるいは表現、文言などについて検討することになります。皆さんから出されたご意見がうまく反映されているでしょうか。どのような形で加除修正をしていったらよいか、この後の全体討議の時間に深めていきたいと思います。</p> <p>よろしくお願ひいたします。</p>
委 員 長	<p>4．協議</p> <p>それではよろしくお願ひします。</p> <p>本日の協議は、まず全体で検討事項にかかる論点整理の資料をもとに、少子化の</p>

	<p>進展に対応した新たな学校作りについて、また就学前から一貫した支援指導のあり方について、その二つが討議の柱として載っていますけれども、これについて委員会の設置要項にある検討事項と今後の提言の内容などを念頭に入れて、その内容や表現の仕方、他に盛り込んだ方が良いことについて討議をしていきたいと思います。</p> <p>本日配布されています辰野町立小・中学校あり方検討委員会論点整理のプリントをご覧いただきたいと思いますが、事前に配布されたものがありますが、今日配られたものをもとに話の方をしていきますので、そちらに差し替えていただきたいと思います。先ほど挨拶の中で觸れましたけれども、検討事項にかかわっての問題整理が提言の骨子になっていくと、そして今後の委員会で、その提言に向けての内容、表現、文言について具体的に検討することになりますが、事務局より配られた資料 No. 2 のところを見ていただいて、辰野町立小・中学校あり方検討委員会に付託された事項にかかる論点整理というプリントがありますが、これももう既に皆さんのお手元にいっていると思います。第7回目の委員会で配られた資料でありますけれども、今までそのような経過をたどって、本日のこの提案はできているのですが、いろんな意見が載っております。それを各自で確認をしていただきながら、本日の討議に活用していただければと思います。また詳細については事務局の方から説明があるかと思います。</p> <p>それではこれから後の全体討議につきましては、まず事務局から検討事項にかかわっての論点整理の資料を説明していただき、内容について、また論点のまとめに繋げていきたいと思いますので説明の方よろしくお願ひします。</p>
事務局	<p>今お話をありましたように、本日資料を二つ用意させていただきました。No. 2 の方は、第7回の委員会で使わせていただいたもので、第1回から6回までにおいて、皆様からいただいたご意見を検討事項に沿ってまとめたものです。そしてそれに、第7回第8回の委員会で皆様方から出されたご意見を加えまして、本日資料 No. 1 として、論点整理をさせていただきました。開催通知と一緒にお送りした資料とかなり違っておりますけど、中身は違っておりません。正副委員長さんとの打ち合わせの中で、付け加えた方がいいところ、もう少し詳しくしたほうがよいところで変わってきておりますけれども、大まかなところは変わっておりませんのでよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、資料 No. 1 の1ページからお話をさせていただきます。まず、検討事項の(1)少子化の進展に対応した新たな学校作りに関する事項①少子化の進展に対応した望ましい教育環境のあり方に関する事項、これについてですけれども、学びの集団としての人数、複数の学級を確保し、活気ある、良好な教育環境を継続的に維持していくために、町内の三つの小学校を何らかの形で集約(再編)したい。小中学校の9年間で育てたい人間像に向け、9年間の連続した学び活動が可能となるように小中一貫教育を推進したい。この中身あるいは趣旨等ですけれども、子供たちが一定規模の集団生活の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人一人の資質や能力を伸ばしていくことを大切にしたい。それから学年に複数の学級があることで、学級編成替えが可能となり、子供たちにとって、人間関係がリセットできたり、固定化された充実が解消されたりすることを期待したい。次ですけれども、この9年間で育てたい人間像ですけれども、その中身といいたしまして、辰野町の教</p>

育ビジョンをそこに載せさせていただいております。育てたい人間像として、辰野町教育委員会では、①広い視野と豊かな想像力を持ち、これから予測困難な社会にあっても力強く生き抜く力を備えた人②ふるさとか辰野町に学び、故郷に誇りと愛着を持った人、を定めています。そして、①確かな学力、②豊かな人間性、③健康体力を身に付けることで、未来に向かって生きる（伸び行く）「辰野っ子」を目指しています。この教育ビジョンについても委員会で扱っております。それをもとに、小学校と中学校が同じ教育目標のもと、義務教育9年間を一貫した系統的な教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行う小中一貫教育により、子供たちの学びが校種を超えて途切れなく進まれていくことを期待したい。教職員にとっても、小中一貫教育を行うことは、小中の枠を超えて互いに連携・協働し合いながら、よりよい教育の創造を目指していくことが期待でき、子供たちへの見守りも多く教職員の目で連続して見ていくことができる。三つ目ですけれども、集約することによる課題数等につきましても、皆様から様々なご意見をいただきました。学校を集約することにより生じる通学や地域との関わり等の課題について配慮をしたい。学校を集約することにより学校が遠くなり歩いて通えない、道草ができない、通学の課題ですよね。それから、学区が広くなることにより、学校支援ボランティアの関わりが難しくなる、学校と地域との関わりが希薄になる懸念が生じる等の課題が生じると思われる。これらの課題、あるいはその課題の対応についても既にいくつかご意見をいただいておりますけれども、これらの課題については新たな学校を構想する中で検討していきたい。3ページにいきます。②小・中学校と地域との連携のあり方に関する事項です。これらは前回の委員会で議論し、ご意見等をたくさんいただいたものです。新たな学校でも、学校と地域とで連携協働して子供たちを育てていくことを大事にしたい。辰野町には、地域が学校を支える気風があり、学校と地域が育てたい子供像を共有しながら連携、協働して子供たちを育ててきた。子供たちが9年間を通して、辰野町の様々な人々との出会いの中で、自らの生き方を考えることができるよう、子供たちと地域との一層の繋がりを期待したい。町内の小・中学校では、現在、地域の「ひと・もの・こと」を中心に多くのことを学んでいる。これは前回の委員会で具体例等を出していただきました。新たな学校でも辰野町の魅力、特色を生かした教育課程を編成し、町への愛着を深めたり、誇りを持ったりする心を一層育んでいきたい。学校支援ボランティア等学校と地域とで連携協働して、子供たちを育てていくことを引き続き大事にしていきたい。子供たちが地域の行事等に参画することにより、地域で地域の子供を育てていくことも大事にしたい。それから体験活動の重視ということもご意見をいただいております。自然体験社会体験等五感を使った学び、キャリア教育等社会と繋がる学びを大切にしたい。人生の中で最も感受性豊かな小・中学生期の子供たちにとっては、実体験が重要である。子供たちは、具体的な体験や事物とのかかわりをよりどころに、感動したり、驚いたり、疑問を持ったりしながら学んでいく。今後、ICTの活用がさらに進んで進んだり、AIが導入されたりしても、五感を使った実体験を学びの原点としたい。それから、次のところで特に今まで扱ってきませんでしたけれども、教育課程外の活動のあり方、放課後の子供の居場所、課外活動の位置づけおよび地域連携については、

今後別の機会新たな場で検討していきたい。中学校部活動の地域展開、小学校放課後学童クラブのあり方等については、それぞれの場で検討を重ねていく。ということです。最後4ページですけれども、就学前から一貫したし支援指導のあり方に関する事項①多様化する児童生徒への支援指導のあり方に関する事項、多様化した子供たちの学びですとか、保障ですとか、居場所ですとか、そういうことに関してたくさんご意見をいただきしておりますが、多様な背景を持つ全ての子供たちが共に学び共に育つ教育環境を検討したい。障がいのある子供や学習面、行動面で著しい困難を示す子供、複雑な家庭事情を抱える子供、また特異な才能を持つ子供など、多様な背景を持つ全ての子供たちが共に学ぶことで、一人一人の子供がその子らしく育っていくことを大切にしていきたい。不登校・不登校傾向の子供や、人間関係の状況の変化、人間関係は友達、先生、家庭等との間の関係です、それからいじめ等一人一人の状況を踏まえた学びの場を提供するなどして、誰一人取り残さない教育を進めていきたい。それから②と③、これについては一緒に考えさせていただいておりますけども②保育園から小学校中学校の連携のあり方に関する事項③保育園、幼稚園から高等学校、短期大学まで揃った町の良さを生かした学校作りに関する事項。保育園、幼稚園から高等学校、短期大学まで揃った町の良さを生かした教育の推進に幅広く取り組んでいきたい。小中学校の教育を充実させるために、幼保小連携や幼児期の教育についても、共に大事に考えていきたい。保育園、幼稚園から小中学校、さらに高等学校から短期大学まで揃った町内の教育環境を有機的に生かし、それぞれが抱えている教育諸課題に対応するため、町内各教育機関同士の連携、交流による教育環境の整備向上に引き続き取り組んでいきたい。これにつきましては辰野Eサミット等で今も展開しておりますけれども、そんなところを大事に今後もしていきたいということです。

以上雑駁な説明で申し訳ありませんが、私からは以上です。それでは検討よろしくお願いいたします。

委員長	今、検討事項に関わっての論点整理ということで資料の説明をしていただきましたが、内容等で確認をしたいこと、また質問、それからあとこれをもとに提言をしていくわけですが、こういう意見、あるいは内容も盛り込んだ方がいい、付け加えた方がいいというようなご意見もありましたらお出しいただきます。多くの内容がありますので、5分間時間をとりますので、もう1回ずっと見ていただきながら、ご準備をいただきたいと思います。
委員長	それでは進めさせてもらいます。全体を三つに分けさせていただいて、まず最初に(1)の①少子化の進展に対応した望ましい教育環境のあり方に関する事項ということで、1ページ目と2ページ目になりますが、そのところで、確認したいこと、質問あるいは付け加えたらいいんじゃないとか、これも盛り込むべきだっていう意見を出していただければと思いますがいかがでしょうか

A 委 員	まず確認したいのはですね、1 ページの下の（1）の中の学びの集団としての人数、複数の学級を確保し活気ある良好な教育環境を継続的に維持していくために町内の三つの小学校を何らかの形で集約したい、これはもうこの委員会として結論付けていくという解釈なんですかね。委員が半分近く変わってる中で、その大前提のところがはつきりしていないもんですからそこのところの議論をし直すのか、もうそれは決まっていることで新しく直さないとするのか、そこをまず確認したい。
委 員 長	それが具体的に出てきた部分というのはですね、今日配られた資料の 2 のところ A3 版ですが、その真ん中あたりの一番右側の方の四角のところですかね、集約の方向あるいは集約にあたってということで、その辺に今 A 委員が出された部分のところでいろいろご意見をいただきしております。それで、今日私も皆さんの方から何も出なかったら、このところは皆さんにちょっとお諮りしようかと思ったんですが、実際に何らかの形で集約するっていうことずっとこの文言で来てるわけですけれども、具体的にはそこにある内容を皆さんこれにしましょうとかそういうふうな決定はしておりませんので、例えばこの委員会の中でこの意見が多く出ましたっていうような形とかですね、この委員会としてのあり方が出せると思いますので、ぜひ多くのご意見を出していただいて、はつきりしたいなというふうに思った部分がありますので、そのところは意見を求めたいと思います
A 委 員	最初にこのことについて、意見を述べさせてもらいたいと思います。10 年前に小中学校あり方検討委員会の答申というか、まとめに、1 学年 10 人という目安があったんですね。その目安がやっぱり私も同感というか、何らかの形で目安、基準を設けないと、いろんな考え方がある中できちんと納得というか仕方ないねという、あるいはいや良かったねというような判断基準、あるいはなんていうんですかね、妥当性っていうそういうものをやっぱり設けるべきだと思うんですよね。それが 10 人というのは実に私も同感だと思ってます。ただ南小の例を挙げてみると、このままいくと 10 人を切るのが近いうち出そうだというような話がありますので、であれば私は改めて提案したいのは、1 歳児から 6 歳児までの合計が 60 人を切ったら、そこから統合に向けて具体的に進めましょうというふうにすれば 5 年なりかけて統合できるわけですからそんな基準がやはり何らかの形の基準を設けるべきだというふうに思います
委 員 長	関連していかがでしょうか。その 3 番目にあるように、いわゆる統合の仕方みたいなものですね、統合の基準というかルールを作っていく、これは A 委員もグループ討議の中でおっしゃったことあります。子供たちが減っていく状況が出てくるような、それそれがやっぱり納得するような基準が必要じゃないかっていうご意見を前から伺っておりました。 統合については 3 校を 1 校に、あるいはそこに西小と東小を集約して大きな学校にして 2 校とかですね、いくつかそこに案として出ております。こういうようにまとめる形で、とにかく集約は必要なんだけれども何らかの形という細かいところについてはここで決めても、それから先、教育委員会、また行政、それから議会等あって、時間的にもそうでしたが、詰めることもなく、こんな文章になってきたという経過もあります。一つは何か基準を作って、10 人みたいな形で決まってるも

	があるので、そのようにしたらどうかというご意見がありました。
B 委員	私も途中から参加したので最初のところはよくわからないんですけど、検討事項の学びの適正規模・適正配置というものを具体的に検討されたのでしょうか。少人数以下になった場合には、統合、集約っていうことなんですかけども、適正っていうのは、実際には10人なのか、15人なのか、20人なのか、そういう考えがもしあるとすれば、どういうふうに決定されたのかお聞かせいただきたいと思います。あと、適正配置っていうのは、例えば全校で100人の学校があります、もう一つは30人の学校があります、また15人の学校があります、みたいなことが適正ではないというふうに考えるのか、例えば三つ学校があったとすれば、それぞれ60人ぐらいずつの学校が三つあるというのが適正と考えるのか。この適正っていうのがどういう数値もしくはどういう根拠で、考えられたのかというような、もしあればお願ひしたいと思います
事務局	この適正規模・適正配置については、具体的な数字、根拠等は検討しておりません。とにかく、急激な少子化が迫っている、それについてこれからの中学校をどうしていくかっていうそういう観点でもって検討してまいりました。特に数字とか細かいことは検討しておりません。
委員長	数字とかそういうものについては今後の検討というようなことです。ただ、今言ったように、少子化の進展に対応した新たな学校というものを検討していくうえでは、三つの小学校については何らかの形で集約をしていかないといけない、ここをまず決めていかないと話が進まないんじゃないかなってことで、そこだけは大まかに決めて、先に進める形になりました。
教育長	実は今のところっていうのは第1回目に説明をしているんですよね。コロナ前とコロナ以降で社会は大きく変わってしまう、価値観もガラッと変わってしまって、しかも非常に多様化していく。そういう中で子供たちの学びを考えたときに、非常に学校も苦しい状況にある。例えば全国的に見れば、不適応とか不登校の子供たちは急激に増えている。ありがたいことに辰野町は増えていないわけですが、これらを考えたとき、学校って何なのかなっていうことを改めて考えてみる必要がある。そうすると、前回のあり方検討委員会では10人という基準を出させていただきました。今回は、中にはうたってないんですけど子供たちの小学校中学校での学びを頭で描いてみたときに、集団でクラスで友達同士で議論をし合う、話し合いをする、ときにはけんかもしたりするんだけど、大きなもの、ダイナミックなものに挑戦をするとなれば、何といつても数が必要なんですね。これはあえて10人っていう規定がなくても、10人くらいはどうしたってこれ必要になってくるんですね。その中で、グループを作ったり個々で学んだり集団で学んだり、また人を入れ替えて学んで行く。それに学級編制ができる、これは非常に大きなことなんですね。学級編成ができるってことは今までの人間関係をリセットすることができるという非常に大きなメリットがある。このままどんどん置いといていったときに、この状況で行ったときに、10名を切る学校が出るわけです。待って待って一つの学校が全部切ったから閉じましょうねって言ったときに、それは、これで閉じれるね

	<p>ていうふうになるかどうか。そういう状況まで子供たちそのまま置いといていいのかどうか。第1回にお示ししましたけれど、既にもう数年後には学年10名を切る学校が出てくる可能性があるというようなこと。これはこれからどんどん出てくる。それまで待っていいのか、子供たちの学びをこれまで置いといていいのかっていうことなんですね。地域とか大人の都合とか不便もあります。でも実際にこれから社会で生きていく子供たちのことを考えますと、子供たちのこれからが大変です。私達が子供の頃は、ただ知識だけを身につければよかった。今は知識はいらない。知識はAIが作れるから、これから本当に社会の中で生きていくためには、目の前で起こった事象を自分なりに理解して、そして、課題を見つけて、どうやったらそれを解決できるのかって追究をして、自分なりの答えを導いていく。これからの社会はよく言われるが答えがない。我々が学んだときは、小学校で学んだときは答えは1つしかなかった。これからの社会は、仕事もAIに変わっていくと言われている。そうすると、自分で生き抜いていかなければいけない。そうすると自分に本当に生きていけるだけの力をつけるためには、やはり今学校においても、とにかく友達と関わり合いながら、あるいは自分で1人で徹底的に追究しながら、そして幅広い知識も身につけながら自分で考え方を身につけていかなければいけない。そうするとある程度の集団がなければいけない。でも、ただ集団だけでいいかとなるとそれが苦手な子もいる、それについてはまた出てくるんだけれどそれなりの学びの場を作りいかなければいけない。そういうことを考えますとね、ある程度の集団、これはもう10名の規定はありませんけれども、必然的にサッカーにしても野球をするにしたって10人くらいは必要。合唱とかあるいは大きな合奏を作り上げる、そして成就感を得るってことも、やっぱりやらせていかなければいけない。そうなりますと、ある程度集団が必要になる。だけど一方では少子化が急激に進んでいく。これまで右肩下がりだったものが、今度上がるってことはまず考えられない。日本中のパイが小さくなってる中で、辰野町だけ大きくなることは、まず考えられない。そうすればこの状況を受け入れて、子供たちにどういう学びを提供してやるのかっていうことを考えていかなければいけないのではないか。そう思いますので、ある程度の学びの集団、集団で様々な活動ができるダイナミックなこともできる。集団ができれば先ほど言ったよう人間関係をリセットするために学級編制替えもできる。先ほどのB委員のご質問のお答えにならないかもしませんが、集約の方向としての適正の規模あるいは適正な配置、あるいはどんなふうにそれを集約していくかっていうそこから先についてはその次に段階で進んでということで、今の段階ではより具体的に、規模はとか、どこに配置していくかとかそういうことについては検討を深めておりません。それが実情であります</p>
委員長	当初のスタートから9名の方が変わってしまってね、非常にそういうところが不徹底な部分があつて申し訳ないわけですけれども、今までの経過とか、あと今の発表等をお聞きになって他にいかがでしょうかね。今、具体的に何らかの形で基準を定めて、判断基準を決めてっていうようなことが必要ではないかっていうご意見がありました

	が、その辺もうちょっとご意見をお聞きしたいと思いますが。A委員のおっしゃるには、10人というあたりが一つの理由としていいんではないかっていうご意見ですね。
A 委 員	はい。
委 員 長	ちょっと私もまとめ方がわからないんですが、今ここで出された意見について、どのような形でこれから提案に反映されていくのか、私もそれ以上のことわからぬんだけれども、意見として皆さんからたくさんお聞きして、それを提言の中に生かしていくことによろしいですか。
事 務 局	いただいたご意見を全て提言の中に組み入れるっていうことではなくて、今日いたいたところをもう1回事務局の方で整理いたしまして、さらに次回皆さんにもお示しするつもりです。
委 員 長	何らかの形で集約するっていう言葉について今やってるわけですが、他にどうですか。今人数的な判断基準ってのが出てきましたが。第7回のときでしたかね、第6回の話し合いかな、スピードを持ってやるべきだと、子供の急激な変化に伴ってね。それで思い切って3校、あるいは中学と一つで義務教育学校にスピード一にやつたらどうかっていう意見もありました。それから小学校3校についてもこれは前にもちょっと私話しましたように、いわゆる3校とも閉校になるわけですね。そして新しい学校になるですからそれも早めに準備をしながらですね、子供たちのいろんな学びの環境に迷惑にならないような形で準備をしてくれっていう意見もありました。あるいはここにあるように大きな学校に西と東をまず集約して、そしてもう一つの学校をいわゆる小規模の学校にして、多様な子供たちを受け入れる学校にしていこうとかですね、そこにあるようにいろんな形が出てきて、それが出されたままのような形でここに来ております。もし何らかの形で集約するということについて意見があれば出していただけだと思います。
A 委 員	例えば南小学校が10人を、私の考えでは平均で10人を切るっていう基準ですけど、1回でも10人切ればもう駄目だっていうことであれば、それはそれで構わないんですが、いずれにしても集約するとなったら、南小は箕輪北小の方が断然近いんですね。あそこなら歩いて通えるんですよ。そういう人が多いんです。さすがに遠い人も出るんですけども、でも全体にとってみても、みんな北小が近いんですよね。それともう一つは、進学の問題も今のベースで少子化が進んで、出生数が減っていけば、やがて中学も大変なことになるんですよね。それを考えたら箕輪中学と一緒にやって、みんなで電車で通うというふうにすれば、大勢の中で切磋琢磨できるんですよね。クラス内のリセッタも、もう本当にできますし、今の中学だって限界に近いんじゃないですかね。それでこの先なり、まもなく2クラスになるでしょう。その先を考えたときに一体どうなっちゃうんだろうというふうに思いますね。
委 員 長	広域的な考え方もあるんではないかというご意見だったと思います。他によろしいですかね。ちょっと先に行かせてもらいますが、私もふと思ったのは今の①の中で学校制度っていう言葉がありますが、この辺のところは皆さんご理解していただけているでしょうか。これは先ほど①のところに学びの適正規模、適正配置および学校制度つ

	ていうふうに書いてあります。事務局の方で、学校制度は具体的にどんなようなことを言つてゐるのか話をさせていただけますか。
事務局	学校制度というのは、例えば現行の 6・3 制、あるいは小中一貫であれば 9 年制とか、そういうことを意味しています。
委員長	そうすると文章の中に、例えば小中一貫、小中一貫教育っていうふうに書いてあるその 9 年間の連続した並びっていうんですよね。今まで学習会等やった小中一貫校とか、義務教育学校っていう具体的なことがこの中に一切出てこないんですが、この中で小中一貫教育というその中身について、そういう言葉っていうのはこれはもう、表してあるっていうふうに考えていいですか。
事務局	小中一貫教育制度は、いわゆる 9 年制になるわけですけれども、その一貫教育制度の学校の中に小中一貫校と義務教育学校がある、どちらにするかってことはここではまだ決定しないってことです。
委員長	小中一貫教育制度ということで小中一貫校あるいは義務教育学校の学習会までやったわけなんですが、それも含めてっていうことでいいわけですね。
事務局	はい。
委員長	それではもう一つ、集約することにより生じる課題等がありますが、2 ページ目の後半のところでありますけれども、今日の資料の中にも町の広報の情報広場っていうプリントが資料として載ってると思います。いわゆる集約することによって起こつてくる問題っていうのが、例えば学校が遠くなつて歩いて通えないとか道草はできないっていう、あるいは学校ランティア、これだけじゃなくて、きっと多くの問題を抱えてるんじゃないかなっていうふうに思うんですよね。だから、例えばいろんなニュースを聞いても、いろいろなご意見で案が戻つてしまったり、山ノ内のように帳消しになつたりですね、いろいろな例が伝わつてくるわけなんですけれども、集約をすることにより生じる課題みたいなもの、今ここにある通学とか地域の関わりそれでもいいんですが、それ以外にもし思い浮かぶことがあればここで出させていただいて、今後スムーズに集約や再編が進んでいくような形で、できるだけ事前に準備をしていくとかですね、何かそれに対して対応策をとつてみたいたいことができればと思うんですけれども。その辺のところ、課題っていうのはどうでしょうかね。三つの小学校の集約っていうのは、私前回の挨拶でも言ったんですけども、三つの学校がなくなるわけですよ。そういうときのいろんなことを考えていただいて、実際にしていく場面では大きな課題が生まれてくるような気がするんですがね。その辺のところいかがでしょうかね。何かもう少し準備をして、やっていかなきゃいけないことがあるような気がしたもんですから、今、皆さんにお諮りしてるんですけれどもね
C 委員	3 ページの学校と地域との連携・協働ということに関してなんですけれども、地域と学校ってのはもうどうしてもこれから繋がつていかないと、地域の方の力もお借りしつつ子供たちを育てていくってことは、十分に書いていただいていると思います。地域っていうひとくくりなんんですけども、やっぱり南小に来て特に感じるのは、顔の見える関係、おじいちゃんはどこのおじいちゃんだとか、どこどこのおばあちゃんだ、小学校では特にそれが大事だなと思います。一方、大規模校の中学校に以前勤務して

	<p>いた頃は、その当時の中学校は、土日はずっと部活動。大規模校でしたので、一つ一つの地域と繋がるということも基本的にはあまり職員の中では意識できず、顔の見える関係というのは、程遠いかなと思いました。地域の行事に参加するということも、そうとう難しい。中学生になると、もう学校へ行きっぱなしで当然職員もずっと休みなく学校へ行き続けるということでした。何を言いたいかっていうと、地域と連携というときに何か一つの仕組みがないと、地域の方も大規模校になった場合、足が遠のいてしまう。行くきっかけもなくなってしまう。やっぱり地域の方と学校とが物理的にというか、自然と顔を合わせられるような時間とか、そういう空間が共有できる、そんな学校だといいなということを思ってます。部活動の地域展開ということも話し合われていますが、やはりそんな点でも、子供たちが地域に帰って、地域の皆さんとともに、部活動も地域の行事にも町のことと共に考えながら、地域の方と考えながら、町を作っていく、そんな仕組みをここに書いてくれとかそういうことではないんですけど、なんかそんなのを考えしていく必要があるなと思いました。</p>
委 員 長	<p>②のところに大きく関わってくるところかなというふうに思います。その前に少子化の進展に対応した新たな学校づくりっていうことのまとめとして、まだご意見いただいけてない方にお伺いしたいんですけども、新たな学校作りをしていく上で大事にしたい、あるいは大切にしなければいけないことでちょっとお聞きしたいんですが、保護者の皆さんとかにお聞きしたいんですけどその辺はいかがでしょうかね。新しい学校を少子化に対応しながら学校作りをやりますと検討してるわけなんですが、子供たちのためとか、あるいは一番最初に出てきたように子供たちの集団のこと、複数の学級のこと、環境のことなどいろいろあるわけありますが、新しい学校にしていく上で一番大事にしていかないといけないことをいろいろと考えてきたわけなんですが、その辺のところをちょっと触れていただければと思います。ここの部分をまとめていきたいと思うんですけども、実際にこれから新しい学校作りについて次の段階の委員会等でまた検討していくってことなるわけなんですが、一番大事にしなきゃいけないこととか、大切にしているかなければいけないっていうのは、今は小学校とか中学校的な発想で言ってる部分もありますので、あと何年後かにその環境の中に入していく幼稚園保育園の皆さん、そのところで、ぜひこういうところを少子化の中では大事にしてほしいなとか、新しい学校を作る時には、こんなふうにしてほしいなっていう、そんなことをぜひあつたら発表していただきたいんですけども。</p>
D 委 員	<p>今お話をありましたけれども、幼稚園から小学校に行くときに、つまずく子供たちっていうのは、小学校行ってからの保護者からいろいろな話をよく聞きます。そんな中で何を大事にして欲しいかっていうことに関してなんですけれども、幼稚園にいると、教科学習ではないので、基本的にいろんなことを生活の中で子供たちが学んでいくっていうことがあるので、できたできないっていうような評価は基本的にないです。ところが学校に行くとそのできたできないっていうようなのが子供たちの中で目に見えてくるのは僕はすごい気になる。やっぱり今後、小学校に行ったときに小学校</p>

	<p>の先生たちの意識がどういうふうに変わっていくかっていうこともやっぱり必要かと思うんですけども、小学校の先生がもっと幼稚園だとか保育園に来て、幼稚園保育園の先生がどういうふうに子供たちを見てるかっていうようなことを体験していただきたいなっていうのが一つと、小学校に行ったときに、急にできたできないっていう評価をしないでいただきたいと。やっぱりそこで子供たちの考え方っていうのは僕は変わてくるかなと思っています。今まで幼稚園とか保育園ではそういうふうにみてもらえて、子供たちの中では何らかの形で自己肯定感っていうのはすごい育まれてきたはずだと僕は思っているんですけども、学校に行って何らかの形でできたできないっていう評価になったときに、子供たちの自己肯定感がどういうふうになるのかっていうのは僕は心配なところです。小学校に行ったときにはそういうふうな形ですぐに見ないで、どんな形でもあなたはそこにいてそれだけでいいんだよっていうところから始まって欲しい。できればそれがずっと繋がって欲しいっていうのは僕の中にはあるんですけども、どうしてもそれが教科学習の中にはまっちゃうと非常に厳しいのかなっていうのは思っています。それと先日新聞にも出てたので、ある程度ご存知だと思うんですけども、次の学習指導要領に向けての方向性がかなり出ていると思われますので、今後、新しい学校を作るときには、そこに向けたものを新たにきちんと入れていく必要は必ずあると思っています。僕もまだ自分の中に入ってる情報だけしかわからないんですけども、もうそこに向かうということであったならば、この先どんな学校になるかわからないんですけども、トップリーダーになる先生方の議論が非常に大きな影響を子供たちに及ぼしてくるのではないかというふうに思っています。もう3、4年後に新しい学習指導要領が変わるっていうことであるのであれば、そこを見据えて考えていくべきなのかなっていうのは思います。その時点になって学校が変わって、新しい学習指導要領を超えてつまんでいくようなことではないと僕は思っていますので、そういったところちょっと考えていただければいいのかなというふうに思います。</p>
E 委員	<p>本当にD委員が言ってくださった通りなんんですけど、保育園の方は何か本当に一人一人を認めて、自分たちで考えた意見を取り上げながらやってきて、小学校もきっとそういうふうにやっていくのかなと思うんですけど、やっぱり一人一人を大事にした学校になっていってくれるといいなと思います。</p>
委員長	<p>皆さんいかがですかね。もし亜れば今言ったような一番大事にしていってほしいこと、あといろいろお立場があるかと思いますが、大切にして欲しいことってなったときに、いわゆる環境といいますか、いわゆる指導する立場の者がお互いもっと知り合うようなこととか、新学習指導要領が今後何年後かに導入されるとすれば、当然その上に乗っていかないといけないということになればと思いますので大事なところだと思います。</p> <p>次にいかせてもらいます。先ほど三つに分けた二つ目のところがありますが、先ほどC委員の方で地域との関係で意見をいただきました。3ページの一番上になりますが、小・中学校と地域との連携のあり方に関する事項、こここのところでいかがでしょうかね。先ほどのように、確認していくたいこととかご質問あるいは盛り込んできていってほし</p>

	いことな、いろんな仕組みが欲しいというような具体的な希望があったんですけどいかがでしょうか。
D 委 員	先ほどC委員がおっしゃられたように、地域との連携っていうのは非常に大事かなって思います。この間も思って、その後から考えてたことがあるんですけれども、未来に向けて地域のことを子供たちに教えることが成り立つようになるためには何が必要なのかなっていうのをちょっとと思ったことがあって、ここに地域との連携っていうのが書いてあるんですけども、例えば仮になんんですけど、保護者だとかPTAっていうのはここには入ってこないのかっていうのが僕の中にはあって、地域と子供たちが今すごい連携を持ってやっているのは、その地域の人たちっていうのは、元々保護者であり、PTAでやってきた人たちなんじゃないかなというふうには僕は思っています。だから逆に言えば、今度この方たちがPTAとか保護者の方と一緒にそういうふうな活動をしていけば、そういう人たちが大きくなったときに今度はそのPTAの人たちが年配になったときにはその人たちが地域の人として、その地域を担う役割をしていくんじゃないかなというようなことは思っています。その連續性を、この中で考えていくような必要があるんじゃないかなと思うんですけども、この地域との連携っていうことが非常に出てくるんですけど、保護者とか親だとかPTAという文言が一言もないでそうなってくると、親はもうそこに任せちゃってそれでいいんじゃないのっていうようなことになりかねないんじゃないかなと思います。そこで親も子供とともに学ぶっていうような部分がどこかにあってもいいんじゃないかなって思ったんです。
委 員 長	今、各学校のコミュニティスクールで、いろんな学校ボランティアを盛んに行っているところが、今おっしゃったように地域の方とPTA、学校の三者それがお互いを巻き込むような形でやってるところは、今ボランティアをやっている方自身が楽しみを感じ、またそれを一緒にやってるPTAの方がそれを見ながらやってるみたいんですね。今おっしゃったようなことが実際に行われてる学校も多くありますので、いわゆる保護者の関係について、もう少しきちんとしなきゃいけなかつたかつてのは私もちょっと反省します。
F 委 員	地域との関わりっていうことなんですねけれど、前回の答申のときには、子供たちにとって地域との結びつきが特に強いのが小学校であり、学区が町全体に広がる中学校段階での地域についての学習の内容は当然異なるものがある、というようなことが書かれているんですね。小学校っていうのは、やっぱり地域との繋がりっていうのが強くなってくると思うんです。その際に、さっきC委員がおっしゃったんだけれど、今は歩いて通えるところの学校の中での地域っていう形になってるわけですね。前回のときもお話ししたんだけれど、統合してしまったときには、地域って言ったときには辰野町全体になってくるわけですね。地域っていうのをどういうふうに考えなくちゃいけないのかっていうことになってくるんだけれど、非常に広いところでもっての学習になってくるということで、これはとても難しくなってくる面が出てくるんじゃな

	いかなっていうふうに思います。特に私が本当に心配するのが、小学校の高学年になればそれはだいぶ対処されてくると思うんですけど、小学校の低学年の1、2、3年生なんていうのはやっぱり自分の足で歩いて、そして勉強するっていうか、そういうものが多いんじゃないかな。私も伊那小学校っていうところにいたんですけど、低学年で学んでるときには、もう毎日朝1時間ぐらい外を歩いてます。その中でもって勉強するようなことを見つけてきては教室に持ち込んで学ぶ。町全体が学区ということになると、そういう学習っていうのがなかなかできにくくなってしまうのではないかなっていう、そういう懸念があります。それは一つ課題になるんじゃないかなって思います。
委員長	ちょっとお聞きしたいんですが、先ほどの学びの集団、あるいは複数の学級、活気ある教育環境を継続的に維持してく、そんなようなことについて今後導入していく、それから低学年はどうするかっていうことです。そのときに、先ほどA委員がおっしゃったように、いつまでそれを続けるかですね。例えば子供だけで歩くのは非常に危険ですよね。人を熊から守るために、ひょっとしたら一人一人ボランティア使わなきゃいけないような状況とか、そういうものも出てきて、どれだけそういうものを生かしながらなおかつ安全、あるいは先ほどの学習のってことを考えたときに、どうなったらいわゆる分校にするなりというふうに考えればいいんですか。
F委員	それはやっぱり先ほど基準というのをA委員がおっしゃったんだけど、10人をまずやってきたあとね、そういう状況になったときにはしょうがなくなってくるんじゃないかなっていうふうに思うんですけど、ただ前回の答申で10人っていうのが出ているわけですよね。そのところはどうやって考えていったらいいのか、その辺もあるかなって私は思います。学校が統合して、義務教育学校についての方向はやっぱり大事じゃないかなっていうふうに私は思います。特に中学生の関係で2クラスとかになってしまったときには、専科の先生がつかなくなってしまったりとか難しい状況になってしましますので、そうなったときに例えば、5年生なり4年生全てが教科担任制っていう形にすれば、先生確保できるんじゃないかなと。これは私はやってないですが、そういう可能性もあるんじゃないかなっていう、そういうことなんです。
委員長	先ほど低学年、1年から3年の子供たちの地域の学習が、統合されて一つになってくると難しくなるっていうそんな話もありました。まだいろんな見方があるもんですから、もしご意見があればいただきたいんですけども、先ほどの一つの基準ですかね、もし10人になれば、このあり方委員会の一つの方向になってきますのでその辺になつてきたら統合という言い方もおかしいですが、統合の方へという形になるんでしょうけども。ただいろいろ問題があるかと思うんですが、今のようなご意見、また地域の方で顔を見るという先ほどのお話もありましたが、あの顔が見えるっていうそういうようなことから考えると、一つの要素もあるかなっていうところかもしれません。
G委員	経過とかあまり知らない中でご意見させていただいて申し訳ありません。私、10人の基準ってすごく大事だと実は思ってはいるんですが、今、高校の再編が真っ只中で、上伊那はもうまさに再編っていうか統合がどんどん、来年再来年とか10年後というふうにも決まってるんですけど、実際どこで統合するかっていうことのめどがない

	<p>と計画も進まないし、辰野町にはそれに向けて予算をどうするのか、先生方をどういうふうにしていくのか、どうやって教育課程を組んでいくのか、地域も本当にさつきF委員が言われた通りで、小学校の子供たちと地域の繋がりってのはすごくありがたいことなんだなっていうふうに思うんです。けれども実際いつが統合かっていう目処がある中で、統合に向かって地域の連携を密にしていくためにはどういたらいいのかっていうところで、やり方を工夫したりとかっていう知恵が集まってるんじゃないかなっていうふうに思うんですね。これってどこに着地するんだろうというふうに思って共感しながら話を聞いてるんですけど、それぞれが良さがあってというふうに思ってます。ですけれども、いただいた冊子の中に信濃町の小中学校の資料があって、コピーしたものがあるんですけども、職員の数が 66 名っていうふうに出ているわけです。先ほど南小の子供が 50 名くらいで、あのぐらい小規模だと職員は何人いるんだろうなと思います。実は辰野高校もどんどん学校が小さくなっているって、実は 6 時 15 分に学校出て来たんですけども、先生方みんな仕事の真っ最中で、そこには生徒が押しかけてきて質問に答えてやって、まだまだずっと仕事してるわけです。学校が小さくなってしまって、先生方の仕事量は変わらなくて、生徒の数が少なくなってるだけで全く同じ仕事量で、逆に職員数が少なくなってるんで本当に苦しくなって、もうどんどん先生方が疲弊しているんです。そういう状況が起こっていって先生たちに余裕をとか、定額働かせ放題ブラックなんていうふうに言われてるのこれまさにその通りです。これを豊かにしていくには、やっぱり学校も大きくなって先生方に日々余裕ができる、生徒と向き合う時間を確保していくその中で、当然人数が多くなればいろんなところで仕事の割り振りができる地域と関わる担当の先生とかっていう形で。あくまでも高校が基準で話してるのは申し訳ないんですけども、そうやって分担ができるってことで仕事が減るし、生徒のためにもなるのかなって思います。もしかしたら小学校とは全然違うトンチンカンな意見を出してるかもしれません、もう具体的に今の段階で 0 歳児が何人いるのか、この段階では統合が完成してるとかどこが合併してかっていうところまでシミュレーションして、そうするとクラス数がいくつになるから上伊那全体で何クラス必要なのか。そこはもう一緒にするんだっていう計画の中で、いろんなビジョン、計画を作っていく、これが普通のやり方じゃないかっていうふうに思います。なので 10 人になったとか 9 人になったとかもすごく大事なんですけれども、今わかつてることで基準をしいて、やっぱり教育委員会などがリーダーシップをとって最善の知恵を絞るっていうことが一番大事でいいものができるんじゃないかなだと思います。今までたってもまだまだだと、マイナスの意見を言っても、いいものは作り上げられないんじゃないかなだと思います。最後責任があるわけじゃないんで、本当に申し訳ない話になっちゃいますがそんなふうに思います。</p>
委 員 長	小中学校とかいわゆる義務教育と高校の環境の違いですね。小中学校の市町村立になると全くその辺はね違うんです。ただ、今の考え方っていうのは非常に大事で、これからそれをやっていかないと、きっとできないんじゃないかなってことを本当に今お聞きしながら思いました。ちょっとこの中で、教育課程を編成してというあまり聞きなれない言葉があったかもしれません。辰野の魅力特色を生かした教育課程を

	編成してっていうことがあります。この教育課程っていうことについて事務局の方でお願いします。
事務局	子供たちが学習する教科学習や総合的な学習の時間などがあるわけですが、そこへ辰野町に関わる内容を入れて、それを各学年ごと1年間の学習内容の形にするということと、今度それを小学校1年生から6年生まで縦に通して、1年生では辰野町のこのことに関わる内容を学習する、3年生ではこういう学習をする、そういうことを教育課程とここでは考えております。
委員長	前にもお話に出たんですが、中学校が三つの小学校が集約された形であるというふうに考えてもいいと思うんですが、辰野中の場合も、町の特色を生かした教育課程みたいなもの、例えば副読本とかそんなものを扱っているんでしょうか。今辰野の小学校では副読本とか作っているところですか。
事務局	はい。
H委員	今お話が出ていますけれど、中学生になりますと、学習として扱える範囲が地域的にも広くなりますので、辰野中学であれば、辰野町全体を一つのフィールドというか自分たちの学びの場として考えて取り組んでいます。1年生のときには、町のいろいろな事業所、一部町を超えることもありますけれど、どのような仕事があって、職業があって、どんな事業所、大人の方が働いている場所があるかっていうことを勉強します。2年生になると、基本的には町内の様々な事業所や施設のところでいわゆる職場体験ということで、1年生のとき学んだ実際の場面に中学生が出かけていくことになります。さらに、そういった事業所に触れたり様々な施設に触れたりする職場体験を経て、もう少し冷静に自分たちの町やふるさとっていうものを考えられるようになると、3年生の秋の時期に自分たちが調べてきた町とイメージしてきた町の事をさらに広げて、こんな自分たちの故郷辰野町になったらいいな、こんなことが辰野でできるんじゃないかなということを中学生議会へ繋げていって自分たちの故郷を考える学習をしていくことになります。今ご紹介したことは何か国で決まっていてやらなければいけないとか、子供議会をやらなければいけなと言われてやっているわけではなくて、中学校としてまさに教育課程を編成するという意味で、1年2年3年と地域を舞台にこういう学習を展開していったら子供たちに力がついていくんだろうな、この辰野町っていう地域を生かしていくんだろうなっていうことで行っています。そういう意味でこの辰野町の魅力や特色を生かした教育課程を辰野中学として編成している、そんなふうにご理解いただけたらありがたいなと思います。繰り返しになりますが、中学生になると町というある程度の広さを持っても、それを学習の相手にしていくっていう部分は出てくるんだろうなと思います。そうしますと、今お話が出来ますように、例えば小学校を一つに、ある場所に小学校を作ったときに、今ご心配いただいているような地域と繋がった学習が辰野町の広い範囲をフィールドとしたときに、小学校の1、2、3年生がどういうふうにしたらできていくかっていうようなことについて、何かしらの道標がこの文言の中に入ってくると、地域の方もある意味では安心されるのかなっていうことを感じさせていただきました。

委員長	<p>地域をどう捉えるかっていう考え方がよくわかったと思います。形の上では3校を集約した形の中学校でありますので、地域というのは町全体、その町全体の中の地域と子供たちの学校、学校との連携っていうのを考えていくと形の上ではこれ非常にわかりやすい一つの問題かなと思うんです。今の顔も見えるっていうところも、中学生が顔を見ながらその中で人と人と繋がる中で学習するわけですので、これからも小学校が集約された場合、そのところに工夫をしてですね、一つの地域としての流れの中での学習、そんなところも模索していくことかな思いながら聞かせていただきました。</p> <p>最後のところで進めさせていただきます。（2）の就学前から一貫した支援指導のあり方に関する事項についてはどうかってことで、4ページですかね、この辺のところはいかがでしょうか。確認とか質問、あるいはこういう文言、こういうことを盛り込んで欲しいっていうことも含めて結構ですが、先ほどの幼稚園の関係のお言葉の中に、それぞれの子供に適したような仕方ってことになるかと思うんですがいかがでしょうか。辰野町の教育ビジョン等でも、多様な子供たち、多様化する子供たちへの対応としていろいろ書いてありましたので、引き続きここに書いてあるような形で取り組んでいってもらうということでおろしいですかね。先ほど少子化の進展に対応した新たな学校作りで一番大事にしたいと思うこと、大切にしなければいけないことっていうのをお聞きしたんですけど、まだご意見をお聞きしてない方について、ぜひ一言ずつ、感想で結構ですので、ご意見や思いをお聞かせ願いたいと思うんですがいかがでしょうか。新しく委員になられてなかなかわかりにくい方もおいでになるかと思いますが、今日お聞きしたり、他の方の意見をお聞きしたりして、自分なりに思ったことお話しいただければと思いますが、一言ずつお願ひします。</p>
I 委員	<p>先ほどからいろんな議論を聞いていて、令和11年に入学する生徒数、子供の数をみると、やはり将来に向けて辰野町の小・中学校をどうしていくんだってことは、当然議論をしていかないとまずいと思うんですよね。どういう学校にしようとほっとくわけにはいかないのかなと感じます。皆さんがある程度保護者も皆さん納得するような形でまとまればこれが一番いいことだと思うんですけども、当然いろんな意見があって、反対する人もいれば、また賛成する人もいると思うんですよね。そういう中で、やはり町民が一番いいと思うことを、今皆さんで選択しないといけない。そして、やはり子供の環境、学びの環境です。これを確保することがやはり一番大切なことだと私は思います。そして地域との関わりをどうやっていくかってこともやはり大きな課題だろうと思うんですけども、子供を持つ保護者、町民のことを考えて、一番いい方法を探っていかなければと思います。</p>
J 委員	<p>西小も1年から6年まで2クラスずつあるんですけど、一番今多いのが6年生でしょうか。35、6人んですけど、1年生が25名ずつ50名ぐらいだったと思うんですけど、私は途中から入ったもんですから10名という人数があんまり頭になかったものですから、今24、5人の授業を見てると素晴らしいと思うんです。ちょうど先生が1対1みたいになられる時間が結構取れて、いい教育をやってるなっていうように見てるんですけど、西小はそんな関係で今ちょうどいいなって感じはしてました。一番大事って言われると、西小は今度は川島も入りましたから川島から辰野の北の方から宮木新町ま</p>

	でが一緒になって一つの学校を作ってるんですけど、毎年いろいろPTAの方からも辰野町の方に要望が出てると思うんですけど、やっぱり歩いてる子供もいるので、安全な通学の環境がしっかりできてるんです。そんな要望はいつも出されているので集約するとなると、やっぱり子供が安全に通れる環境を考えてもらわないと困ると思いますのでよろしくお願ひします。
K 委 員	私は今日から初めて参加させていただきましたので何か言えるような立場ではないんですけども、前回までの議事録を読ませていただいて、今日も参加させていただいて、議論は深まるんでしょうけど、最終的な落としどころというか、結論をどのように導いていくのかな、決定機関はどこにあるのかなと。この会は検討委員会ということなので、おそらくいろんなお立場の方がいろんなご意見を出されて、それを決定機関の方々が集約して最終的に方向性を導くんだろうなと思って聞いておりました。G委員がおっしゃったように、ある程度、時期だとかあるいは基準というお話もあつたんですけど、何かそういった方向性を決定する大きなものが何かないとですね、この会はあと何回計画されてるかわからないんですけど、深まる一方で最終的な決定はどういった形でっていうのは、今日初めて出させていただいて感じました。集約というか統合等いろいろな言い方があるのかもしれないんですけど、それ自体がもう大前提で決まっていてですね、そこに向けて進めている委員会なのか、それを最後検討するのか、私自身わからずに来てしまったので明確な意見を申し上げられないんですけども。保護者という立場で言うと先日中学の文化祭がありまして、ちょっと私は足を運べてないのですが、家族の話を聞くと、非常に盛り上がったと。そういうものが例えれば統合なり再編成なりですね、低学年、高学年いろいろなんですが、幅広い子供たちがそういったものを共有できる、同じ場所で体感できるとそういったことは、いろいろ課題はあるんでしょうけれども、子供たちにとっては有意義な場になるのかなという思いは日頃の子供たちの会話の中から感じました。ですから統合、再編成に前向きだとか後ろ向きだとかいうわけではないんですけども、そういった子供たちの学びであったり学校行事であったり、そういったものがより有益になるのであれば、統合であったり編成は進んでもいいのではないかというふうに感じております。
委 員 長	途中からということで非常に無理なお願いをしてるわけですが、令和5年に設置要項ができる、それに沿って、少子化の進展に対応した新たな学校作りというものについて諮詢されたこの委員会があつて、だからこうしましょうじゃなくて、こんな方向が考えられるとか、いろんな問題あるってことを話し合うようなことで、最終的な結論を出そうということではありませんので、様々なご意見をいただいて次回に向けて少し絞り込んで次に送ってくっていう形になります。
L 委 員	自然体験、五感を使った学びについてなんですが、やはり昔と違って今の子供たちは昔の子供に比べて外で遊ぶ、学ぶことが少ないために心の安定にかける部分があるのかなと自分は思っています。下の子が小学校5年生で田植えがあったんですけども、田植えの前の代掻きや田植えをやるにあたって、汚れたくない、田んぼに入れない、手をつけたくないというようなお子さんが何人かいらっしゃいました。やはり砂遊びとか、

	<p>泥遊びとかに触れる機会が少なくなってきたところから、そういうことが起こるのかなっていうのもありますし、今はやりたくないことは無理にやらないという教育方針にもなってきてると思うんです。でも、泥の中に入れないということについては、先生によって全員入れるようになるんだなっていうのをすごく思って、その先生のやり方、言い方によって、入れない子が5、6人いたんですけど、田植えのときには田んぼの中で全員が泳いでるような状態に変わっていたのに感動して、5年生まで泥やそういうものに触れて来なかっただ子でも、5年生からでもそういうふうに変われるんだなっていうのをすごいと思いました。先生のやり方がすごく重要なって言うのも思ってますし、畑や田んぼや今まで通学路で学んできたようなことができなくなってる子供たちに、学校でそういう体験をする場を増やしていくことによって最初イヤイヤしてた子も自然にリフレッシュできて心の安定に繋がるっていうことが不登校などを減らしていくのにも繋がるのかなっていうのをすごく思っているので、そういう学びを大切にしていって欲しいなっていうのはあります。</p>
M 委 員	<p>いろいろ聞いていてG委員がおっしゃる通りだなって思ったんですが、文科省の方では学校教育法の施行規則の中で、小中学校の学校規模について12学級以上18学級以下が望ましいというふうに言ってるんですよね。あるいは長野県の方でも、複式学級にならない規模であること、あるいは学年に複数の学級がある規模であることが望ましいということが言われてるんですね。長野県教委も文科省も当然ですけど、子供の教育について真剣に考えた結果、この結論を出してるんですよね。ですからそのあたりも考慮する必要があるんではないかとは思います。それと、信濃町小中学校だとかもう既に統合されてるところがあるじゃないですか。そういうところの資料はわたってるんですかね。例えば先ほどの地域との連携についても、PTAの学校応援団と地域が一体となってコミュニティスクールを実践していくというふうに書かれていたり、信濃小中学校では実はふるさと学習ということで、1年生から9年生までがホップステップジャンプっていうふうにクラス分けされていて、それぞれ学習するだけじゃなくて、人と人の温かさを感じ地域とともに歩む活動っていうことでふるさと学習を基盤に、地域と共同参画型の活動を行っていると書いてあるんですよね。あるいは、信濃学校応援団、これは保護者や地域の方と連携して、自立の力を育む時間を効果的に運用するというふうに書かれている。こういったものっていうのは皆さんご存知ですかね。2回に渡ってそれについて学習をして、全員には資料がわたってるわけです。ただそれは引き継がれているか、また読んでいただいたらしく、そういうことについてはちょっと確認しておりません。去年の学習会で僕も参加させていただいて、一つにして良かった点、悪かった点をそのときにいろいろと説明していただいたんですね。実際に辰野町が例えはどういう方向に行くのかっていうところなんですが、他の地域で実際に実践した学校を調べて、良かった点悪かった点というのをみんなに説明してもらったら納得できるんじゃないかな。おそらくどこの小中学校でも同じ問題は絶対持ってると思います。それをどう解決したのかっていう、そのあたりをやっぱり勉強していったらいいかなとは思いました。</p>

N 委員	<p>今日参加させていただいた中で、私代表となりますけど、個人の感想になるのかな。まず私自身思ってるのは、統合小中学校がまとまっていく、これに対しては私自身は賛成派です。それは中学校に入ると、思春期になって、自分が成長していく過程の中で小学校の子がすごく子供に見えて感じてしまう。そういうところで小中学校が一緒になったときに、中学生が小学校の下級生を面倒を見るという表現があつてかどうかわからないけれども見守ってあげることもできる。見守ってもらった小学校の子たちが、今度入ってくる保育園の子供たちをより包容力をもつて受け入れることができる。この環境作りっていうものが学校統合っていうことに関しては、一番のメリットじゃないかなと思っているところです。教育という過程の中では、具体的にはもっと大事なことはいっぱいあるとは思うんですけど、ざっくりと私が感じているのがまずそこです。それと今日、再三にわたって話の中で、いわゆる基準というふうな表現をされている内容が多かったですけど、そこが見えてこないと肉付けができるなっていうことはちょっと感じたところなんですが、人数のこともそうなんですねけれど、私が思ったのは、今の子供たちが何年後にこう少なくなっていますよ、10人の基準を設けましょうかっていう目安が必要になってくるとは思うんです。子供たちを基準にすることはもちろん考えてはいるんですけど、逆に先生方を基準にしたときは、どうなんだっていうのは、率直に思った感想です。1クラス何名かが理想でなく、学校に何クラスが理想で、現場に立っている先生方が、きめ細かなとは言いませんが、子供たちを適正に見れる人数を逆算していったときに、統合時期っていうのを割り出していくっていう考え方もあるのではないかと感じたところです。あと多様性のところで思ったのは、今保育園でも外国籍のお子さんがいらっしゃいます。子供たちは、非常に仲良く、お友達として良い関係と環境を作ってくれています。これが小学校、中学校に上がっていく数年先を見据えていくと、多分増えてくるだろう。辰野町も、僕は子供のとき西小学校でしたけど、外国の子は正直いなかつたです。これから先を考えれば、多分間違なくそこも多様化していく中に含まれるんじやないかというふうに思っております。給食の問題も問われているんです。イスラムの、いわゆる豚肉が食べられないっていうお子さんに対して給食をどこまで対応するかっていう問題が先日ニュースにもなっていって、そういう問題は決して対岸の火事とかそういう問題ではなく、ここでも起こりうる問題だっていうふうに思うと、そこは外せないんじゃないかなっていうのが、今日感じたところでございます。</p>
O 委員	<p>私自身は高校生と保育園の子供がいて、そこを比べるだけでやつり子供の数は半分ぐらいに減っちゃってるかなっていうのが思ったところです。長男のときは2クラスあって、クラス替えとかもあったんで、気の合わない友達と別にしてもらう配慮などができたんですが、下の子たちは小学校に上がっても今のままクラスは変わらない。そうなったときに、やっぱりいろいろ問題が出てくるんじゃないかなっていうことが一つあるのと、統合するにあたって、今、東部と平出が統合に向けていろいろやってるところで、交流会みたいなことは結構頻繁にやってるみたいです。そういうようなことを、他の保育園とかそういうところもあつたら友達の輪が広がっていくんじゃないかなっていうのがあります。私もどちらかというと統合に関しては賛成の意見で、</p>

	大きな規模になった方が、先生たちもいろいろな面で増えてくし、実際息子が中学のときも、クラスは4クラス5クラスあったけど、結局部活動とか先生が忙しくいろいろできなかつたとか、そういう対応とかも考えると、やっぱり大きい人数でやっていった方がいいんじゃないかなっていうふうに思いました。
委員長	すいません、時間がないので教育委員の皆さんはよろしいですか。次回また時間取りますので申し訳ありません。
P委員	先ほど学習指導要領の改訂の話が出たんですけども、これも特別部会で進めていってしまったんですけども、五つあるんですよね。授業時間数なんかこれはもう教育委員会の指導で、あるいは学校の裁量でコマを増やしたり減らしたり、授業も40分にしたり45分にしたり、自由に裁量できる。それから学習評価の方法の変更、それからこれインクルーシブ授業じゃないですけど不登校を個別の指導計画にすること。それから情報教育の強化、これはAIとかSNSの話だと思います。それから、学習内容を動画でやられてもいいんです。信毎の解説を読ませていただくと、学校裁量による柔軟な教育課程の編成を行うこととしたと。次期学習指導要領の論点整理は、教育行政の大きな転換だと。指導要領の文字数や教科書のページ数は増え、多くの小・中学校は、年間標準授業時間を1015時間を大きく上回る授業計画を立てると。これは災害や感染症といった不測の事態も想定しながら、そうすると学校の先生はそれを全て教えなければならない。ものすごい負担ですね。先ほどあったんですけども少人数教育っていうのは必要なんだけれども、だけどそこにですね専門のマンパワーを集約したり、設備やいろんなことを全部考えると、やっぱり学校は集約化していかなければいけないかなというのが一つ。それは小中一貫校でも義務教育学校でもいいんですけども。それで私の全く個人的な意見なんですけど、このあり方検討委員会はボトムアップしようと思って立つべきものではないと思うんですよ。この意見をですね、そちらの方でまとめていただいて、教育委員会とか、教育長、それから最後、次のステップで最高の議決機関である町長が、要するにそこでもう1回トップ同士が話し合って、ある種、それはもうプロがそこら辺を全部見た上で結論を出さないと、皆さん本当にもつともな意見ばかりですけども、これを全部集約してどうするということはできないと思うんで、教育っていうのはなかなかその成果について勝敗がつきにくいというか、非常に難しいジャッジが必要だけど、そういうことだと思うんですよね。だからですね、これを、いろいろな意見を教育委員会の方で集約していただいて、決めていただくなっていうのが私の個人的なイメージかなと思います。
委員長	ありがとうございました。皆さんからご意見をたくさんいただきましたので、ちょっと延びて申し訳ありません。 今日のご意見等をまとめてまた次回に繋げていくということで先ほど言った通りであります。最後に、この検討事項に関わっての整理が提言の骨子になるかと思うんですが、その内容についてのご意見をいただきました。これから次回に向けてなりますが、ただ最後に本日の討議を踏まえてですね、この委員会が今後どのように運営され、今後提言書の提出までどのように進んでいくのかという見通しをですね、事務局の方からお話をいただければと思います。というのは来年2月までが本来の私達の任期

	でありましたので、委員会の回数も限られてくると思います。ちょっと気になったものですから説明をしていただければと思います。
事務局	ざっくりですけれども、本日皆様からいただいた貴重なご意見を整理いたしまして、次回 11 月のできるだけ早い時期と考えておりますが、ここで改めてご意見をいただきたいと思っております。それを踏まえましてまず議会の方へ提出いたします。その上で、町民の皆様のご意見を聞くということになっておりますので、パブリックコメント、これをいたしまして、それを元に原案という形にして、もう 1 回この委員会でもんでいただき、その上で提言として、この委員会から教育委員会の方へ提出します。それは一応今年度内と考えておりますけども、具体的なスケジュールについては今のところ未定でございます。
委員長	だいぶ忙しい日程になるかなと思うんですが、また今年度内が一つの目標ということで、そんな形で今後進んでいくということありますのでよろしくお願いいいたします。
A 委員	先ほど議会に提出すると言われたようですが、提言書を議会へ提出するということですか。
学校支援課長	提言書を報告するわけではなくて、パブリックコメントをする前段として、議会の方に説明をするということです。
委員長	そんなことでこれから回数も少なくなるかもしれませんけれども、また検討していきたいと思います。ありがとうございました。以上で全体討議を終わりますが、協議事項のその他で何かありましたらお願いします。なければ、協議事項これで終了ということで事務局の方お願いいいたします。
学校支援課長	活発なご意見ありがとうございました。それでは 5 のその他でございますが皆様の方から何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、6 の閉会の言葉を副委員長お願いいいたします
副委員長	6. 閉会 皆様長時間お疲れ様でした。以上をもちまして第 9 回辰野町立小・中学校あり方検討委員会を終わります。ありがとうございました。